

## 美容芸術学における授業プログラムⅡ

## Methodological Analysis for Aesthetic and Cosmetology

武藤 祐子<sup>1)</sup> 富田 知子<sup>2)</sup>

## 抄録

本報告は美容総合学科 美容デザイン専攻 2 年で行う「美容芸術学」の授業報告である。近年、教育現場では「人材養成の目的」および「教育目標」の明確化が盛んに叫ばれているが、実技系はその授業形態から講義系と異なり、理解度や習得度の確認を授業と同時進行で確認できるシラバスおよび授業計画の作成が必要といえる。しかしながら、各学生によって技術力や表現力が異なるため、実際に理解度や習得度を確認することは困難な場合が多い。本報告はこのような問題点を考慮し、15 回の授業の内前半 9 回と後半 6 回の内容をⅠ・Ⅱと分け、Ⅱでは後半課題、モデル表現のための工程から完成した作品と学生アンケート調査を基に、我々が目指す「美容芸術学」教育の授業目標の到達度の検証について報告する。

キーワード： 美容芸術 美容教育 授業計画 到達度 コンセプト

## Ⅰ. 緒言

平成 20 年度の大学設置基準の改正以降、学士課程において「人材養成の目的」および「教育目標」の明確化が求められるようになった。また、自校の理念、教育・研究目的など、大学における「自校教育」を導入する大学も年々増加している。

本報告のキーワードでもある「美容芸術」という言葉は、前半報告「美容芸術学における授業プログラムⅠ」中でも挙げた、山野愛子初代学長著『美容芸術論』や、本報告の共著者である富田知子氏著『美容師のための美容芸術論』の題名、また、本学の名称の一部でもあり、我々の担当科目である「美容芸術学」の授業内容の充実を図ることは、本学の教育目標および自校教育としても期待できると考えられる。授業内容を提示するものとして、シラバスや授業計画などがあるが、美容教育の主体である実技系は、その授業形態から、講義系と異なり、理解度や習得度の確認が、授業進行と並行しながら行えるシラバスおよび授業計画の作成が必要である。しかしながら各学生によって技術力や表現力が異なるため、実際に理解度や習得度を確認することは困難な場合が多いといえる。

本報告では、このような時代背景と問題点を考慮し、平成 24 年度美容総合学科美容デザイン専攻 2 年後期科目「美容芸術学」で実施した、方法的試論（ヘアメイクデザインのプロセスの一例）の授業報告に合わせて、プロセスを経て完成した作品と学生

アンケート調査を基に、我々が目指す「美容芸術学」教育の授業目標の到達度の検証について報告する。

## Ⅱ. 研究方法

## Ⅱ-1 「美容芸術学」シラバス内容

平成 24 年度開講科目「美容芸術学」のシラバスにおいて提示した「科目の概要」および「授業の目的」「授業計画」を以下にあげる。

## (1) 科目の概要

必修科目『美容デザイン』において学習した基礎知識とヘアスタイルの構成要素を基に、感覚の整理、リンクブック等ツールとして、ヘアデザイン（着想）を具現化し、パーソナリティーを活かした多彩な表現方法を養います。また、ヘアデザインに応じた撮影方法を用いて写真作品を完成させ、作品についてプレゼンテーションを行います。その後、ディスカッション形式による個々の作品論評を通して美容の芸術的可能性を探ります。

## (2) 授業の目的

ファッション業界の一翼を担う美容の業を行うために必要な美容の時代様式の知識を習得すると共に、造形の意義と応用を通して、お客様の希望を聞き取

るカウンセリング能力とデザイン能力、表現能力を構築します。

(3) 授業計画

全授業 15 回のうち、授業プログラムとして第 10～15 (全 6 回) で実施した。学生に提示したプロセスは以下の表 1 の通りである。今回実施したヘアメイクデザインのプロセスの一例は、本報告筆頭者が『美容教育をめぐる方法論的試論-社会調査に基づく現状分析と今後の課題』3)の中で、社会調査を基に論じた方法論を一部参考に編成ものを使用した。

表 1 ヘアメイクデザインのプロセスの一例  
ヘアメイクデザインのプロセスの一例

Step1	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ決定3人1組 ⇒ 技術者(ヘア①・メイク①)、モデル①</li> <li>カウンセリング ⇒ カウンセリングシートの作成</li> <li>テーマ・コンセプト決定 ⇒ コンセプトシートABの作成</li> </ul>
Step2	<ul style="list-style-type: none"> <li>Step1に沿って、ヘアメイクデザイン及び衣装決定 ⇒ コンセプトシートAB</li> <li>Step3(リハーサル)に必要な道具の確認 ⇒ 道具リスト</li> <li>プレゼンボードのベースのデザイン&amp;着色 ⇒ プレゼンボード</li> </ul>
Step3	<ul style="list-style-type: none"> <li>リハーサル ⇒ コンセプトシート</li> <li>プレゼンボードデザイン(写真レイアウト、テーマ、氏名) ⇒ プレゼンボード</li> </ul>
Step4	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘアメイク制作&amp;撮影(100分) ※ヘアメイク40分・撮影20分</li> <li>写真の選定、サイズ決定</li> <li>プレゼンボード&amp;プレゼンシート作成 ⇒ シートは宿題</li> </ul>
Step5	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘアメイク制作&amp;撮影(100分) ※ヘアメイク40分・撮影20分</li> <li>写真の選定、サイズ決定</li> <li>プレゼンボード&amp;プレゼンシート作成 ⇒ シートは宿題</li> </ul>
Step6	<ul style="list-style-type: none"> <li>完成写真をプレゼンボードにレイアウト</li> <li>プレゼンテーション(ビデオ撮影)</li> <li>他の作品の公開</li> </ul>

II-1.1 授業プログラムの到達目標と工夫点

「美容芸術学における授業プログラム I」4) の授業内容および II-1 のシラバスを元に、本プログラムにおける学生の到達目標として、以下 4 点を示す。

1. モデルの希望を反映した制作を行うこと。  
これにより、お客様の希望を聞き取るカウンセリング能力、デザイン能力、表現能力を養う。
2. モデルへのカウンセリングを基にイメージアップとイメージチェンジの 2 作品を制作すること。  
これにより、パーソナリティーを活かした多彩な表現方法を養う。
3. ヘアメイクデザイン画を作画すること。  
これによりヘアデザインの着想を具現化する能力を養う。

4. 作品についてプレゼンテーションを行う。これにより、作品の完成度の確認および美容の芸術的可能性を探る。

以上、4 点の共通目標として、「コンセプトに沿ったヘアメイクデザインの制作」が到達目標であるといえる。併せて、プログラムの工夫点として、以下 3 点を示す。

1. Step やプロセス毎に記録のできる用紙を準備。  
これにより、学生の理解度や習得度を授業進行と並行して確認を行う。「カウンセリング：カルテシート、コンセプト決定：コンセプトシート、ヘアメイク決定：デザイン画シート、プレゼンテーション：プレゼンテーション原稿、作品批評：プレゼンテーション批評シート」
2. プロセスに合わせて授業で使用する教室を変更。  
これにより、授業進行の環境を整える。「カウンセリング：講義室 (520)、ヘアメイクデザイン：本学図書館、プレゼンテーションボード制作：デザイン室 (308)、ヘアメイク制作：本学美容室、プレゼンテーション：講義室 (520)」
3. プレゼンテーション風景のビデオ撮影。  
これによりプレゼンテーションで発表すべき内容を簡潔にまとめる。発表者および聴講学生に適度な緊張感を持たせる。

II-2 授業計画の実践

平成 24 年度美容総合学科・美容デザイン専攻 2 年次生を対象者として、実施した「美容芸術学」の授業プログラムの実践を以下に示す。

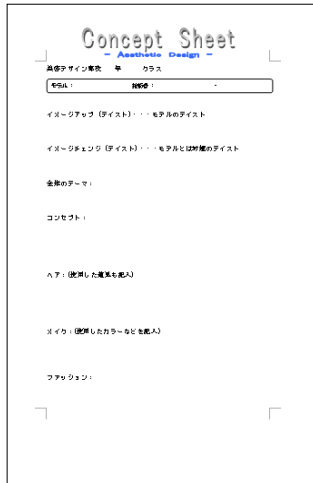
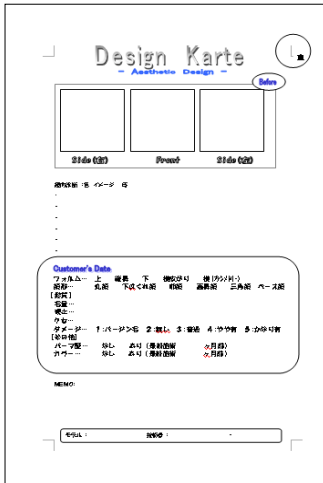
Step 1 使用教室：520 講義室

実施：2012.11.12 (ECD) ・ 11.13 (AB)  
ヘアメイクデザインの実践に当たり、導入として Step1～6 までの概要の説明を行なった。クラス内で 3 人一組のグループに分かれるように指示(ABCDE クラス全 40 グループ)し、その 3 人の中で技術者(ヘア 1 名、メイク 1 名)、モデル 1 名の担当を決定。そ

の後、技術者がモデルに対して、嗜好、顔の個性分析、パーマ歴などを記入する、カルテシート(資料 1)を使用してカウンセリングを行なった。モデルの要望に合わせた作品コンセプトとして、モデルのイメージアップとイメージチェンジの 2 つのテーマを設定。コンセプトシート(資料 2)の作成を行なった。

資料 1 カルテシート

資料 2 コンセプトシート

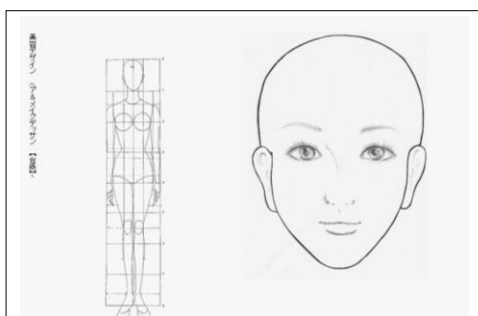


Step2 使用教室：308 デザイン室、図書館

実施：2012.11.19 (ECD) ・ 11.20 (AB)

Step1 で決定したコンセプトに沿って、2 つのテーマ作品のヘアデザインおよび衣装の決定を行い、用紙にヘアメイクデザイン画、ファッションデザイン画を 2 作品それぞれ作画した(資料 3)。これらを基に、Step3 で行なうリハーサルに合わせ、ヘアメイクに必要な道具の確認と衣装の確認を行い、道具リストに記入した。並行して、Step6 で使用するプレゼンテーションボード (A3 サイズのボード 2 枚を中央で張り合わせる) のデザインおよび背景色の着色を行なった。

資料 3 デザイン画シート



Step3 使用教室：308 デザイン室、美容室

実施：2012.11.26 (ECD) ・ 11.27 (AB)

コンセプトシートに沿って、モデルの半顔ずつ 2 テーマの作品のリハーサルを実施した(図 1)。リハーサルによって、本番の時間配分およびデザインの確認を行い、デザインの再検討などを行なった。使用する写真サイズ (A4 サイズ×2 作品、2L サイズ×2 作品) を考慮して、Step2 で着色したプレゼンテーションボードに、「テーマ」「氏名」の記載およびデザイン画の添付を行なった。

図 1 リハーサル風景 撮影場所；本学美容室



Step4 使用教室：美容室

実施：2012.12.3 (ECD) ・ 12.4 (AB)

リハーサルを基に、2 テーマのうち 1 テーマの制作を行なった(図 2)。ヘアメイク制作から撮影まで 100 分間とした。時間の目安として、ヘアメイク開始から 60 分経過を知らせ、ヘアメイクが完成したグループから学校敷地内にて撮影を行うこととした。撮影後にプレゼンボードに貼る 2 枚の写真を制定し、写真サイズを決定した。

図 2 制作風景 撮影場所：本学美容室



Step5 使用教室：本学美容室

実施：2012.12.10 (ECD) ・ 12.11 (AB)

Step4 と同様に、残り 1 テーマの制作の実施と、撮影、写真の選定まで行なった。また、プレゼンテーションボード制作の続きや Step6 で使用するプレゼンテーションの原稿 (資料 4) を作成した。

図 3 撮影風景① 撮影場所：本学美容室他



品の批評を記入させた(批評シートは授業最終日に記入するため、学生へのフィードバックの場として、本学生の卒業式(2013.3.18)に、完成したプレゼンボードと作品毎にまとめた表を学生ホールにて展示する予定である)。併せて、全グループの発表後に、今回の制作に関するアンケート調査 (資料 5:右) を実施した。

図 4 プレゼンテーションボード 例 1

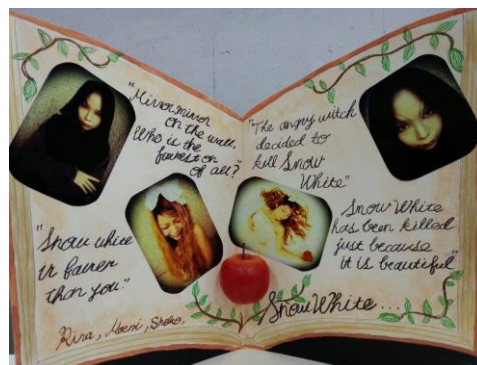


図 5 プレゼンテーションボード 例 2



資料 4 プレゼンテーション原稿

Step6 使用教室：520 講義室

実施：2012.12.17 (ECD) ・ 12.18 (AB)

2 テーマで制作した写真 (合計 4 枚) をプレゼンテーションボードに添付し、ボードを完成させた。各グループのプレゼンテーションでは、原稿の内容に加えて、担当についての感想を一人ずつ発表した。なお、プレゼンテーションを行なう際、プレゼンテーション批評シート (資料 5 左) にグループ毎の作

資料 5

プレゼンテーション批評シートおよびアンケート紙

II-3 アンケート調査の方法

Step6 の最終日 (2012.12.17(ECD)・12.18(AB))

に今回の制作 (授業プログラム) に関するアンケート調査を行なった。アンケートの内容は、以下の 11 項目を設けた。( ) 内は選択肢。

- ① 今回の作品制作で、あなたは何を担当しましたか。  
(ヘアメイク モデル)
- ② 以前に、作品制作のヘアメイク経験はありますか。  
(はい いいえ)
- ③ ヘアメイクや衣装を考える過程で、コンセプトに適したデザインを考えることができましたか。  
(はい いいえ)
- ④ヘアメイクのデザインを考える際にデザイン画の作成は必要でしたか。(全く必要でない 不要 どちらともいえない 必要 非常に必要)
- ⑤(技術者回答)デザインを考える際に、モデルの意思を受け取ることができましたか。(全くできなかった できなかった どちらともいえない できた 非常にできた)
- ⑥モデルのイメージ (意思・希望) と技術者のイメージ (提案) は同じでしたか。(全く違った 違った どちらともいえない 同じだった 全く同じだった)
- ⑦完成したヘアメイクは技術者からの提案とモデルのイメージとどちらに近かったですか。(非常に技術者 やや技術者 どちらともいえない ややモデル 非常にモデル)
- ⑧完成した作品にどのような印象を受けましたか。  
(全く不満 不満 どちらともいえない 満足 非常に満足)
- ⑨制作過程で一番苦勞した工程はどれですか。  
(コンセプト決定 プレゼンテーションボード ヘアメイク 撮影 プレゼンテーション)
- ⑩今回の制作においてヘアメイク担当者の位置づけは以下のどれに近いと思いますか。(ボランティア サポーター アドバイザー アシスタント 制作者)
- ⑪ (自由記述式) 最後に、今回の制作について、感想や気になった点などをお答え下さい。

II-3.1 対象者 (回答者) の基本属性

回答者の基本属性は表 2 の通りである。

表 2 対象者 (回答者) の基本属性

学 年	美容総合学科美容デザイン専攻2年 105名(100%)				
ク ラ ス	A 21名(20%)	B 17名(17.1%)	C 23名(21.9%)	D 24名(22.9%)	E 19名(18.1%)
性 別	女性 88名(83.8%)		男性 17名(16.2%)		

註: %は回収できた回答用紙率である。

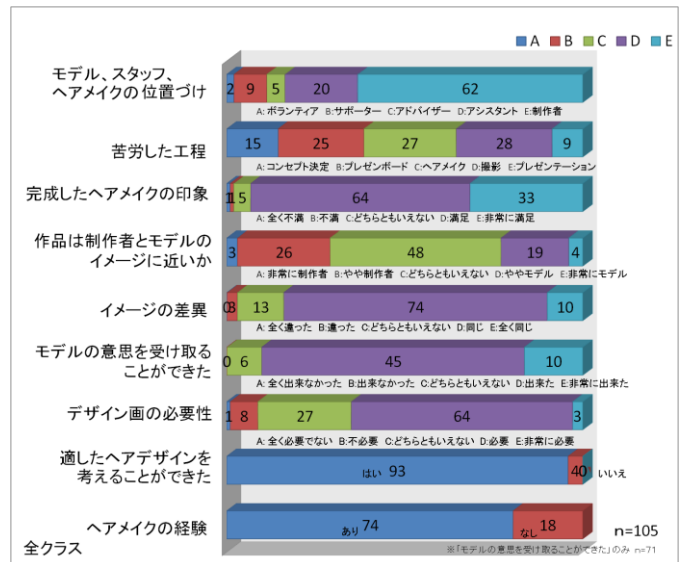
III. 結果と考察

本授業プログラムの結果、プロセス毎に記録のできる用紙やプレゼンテーションボードの提出ができなかったグループは全 40 グループ中 0 グループであった。Step6 のプレゼンテーションは、就職活動および体調不良により 1 グループの未発表グループが出たが、それ以外の 39 グループは実施した。また、授業プログラムに関するアンケート調査の結果、105 名の回答を得た。

III-1 定量的分析

定量的データをもとに、設問①~⑪のアンケート調査の単純集計結果を、以下表 3 に示す。

表 3 単純集計結果



集計の結果、②これまでに作品制作のヘアメイク経験がある人が 74 人、無い人が 18 人であった。2 年次の 12 月時点で 2 割弱の学生が作品制作のヘア経験がないことが分かった。③ヘアメイクや衣装を考える過程で、コンセプトに適したデザインを考えることができたかという設問にいいえを選んだ学生が 4 名と少数であることから、コンセプトの決定からのデザイン決めはスムーズであったことが分かった。

④ヘアメイクのデザインを考える際にデザイン画の作成が非常に必要と答えた 3 人、必要が 64 人、どちらともいえないが 27 人、不要が 8 人、全く必要でないが 1 人であった。授業にて観察している際、言葉だけでデザインを決めていくグループが 2、3 組いたが、デザイン決定の際にデザイン画を活用している学生が比較的多いことが分かった。⑤ヘアメイク技術者のみ回答で、デザインを考える際に、モデルの意思を受け取ることが非常にできた人が 10 人、できたが 45 人、どちらともいえないが 6 人、できなかったおよび全くできなかったは 0 人であった。カウンセリングによってモデルの意思を反映したデザイン決めが行なわれていたことが分かった。⑥モデルのイメージ（意思・希望）と、技術者のイメージ（提案）が、全く同じだったと答えた人が 10 人、同じだったが 74 人、どちらともいえないが 13 人、違ったが 3 人、全く違ったが 0 人であった。モデルの希望と技術者の提案は、比較的同じイメージであったことが分かった。⑦完成したヘアメイクは技術者からの提案とモデルの希望のどちらに近かったかという設問で、非常に技術者に近いが 3 名、やや技術者に近いが 26 名、どちらともいえないが 48 名、ややモデルが 19 名、非常にモデルが 4 名であった。完成作品が、技術者とモデルの片方のイメージに偏ることなく、双方のイメージに近い作品が完成したことが分かった。⑧完成した作品の印象に非常に満足が 33 名、満足が 64 名、どちらともいえないが 5 名、不満が 1 名、全く不満が 1 名であった。不満と回答したヘア担当学生の感想には「思っていた通りにヘアが上手くできなかった」、全く不満と回答したモデル担当の学生の感想には「撮影が難しかった」との記述があった。これらの記述から、制作不全における不満を感じた学生もいたが、全体として完成作品への満足度は高いことが分かった。⑨制作過程で一番苦労した工程は、コンセプト決定が 15 名、プレゼンテーションボードが 25 名、ヘアメイクが 27 名、撮影が 28 名、プレゼンテーションが 9 名であった。学生毎に苦労した工程は様々であり、各工程の経験は、より幅の広い発展的な制作に繋がった可能性が見られた。⑩今回の制作において、ヘアメイク技術者の位置づけは、ボランティアに近いが 2 名、サポータ

ーに近いが 9 名、アドバイザーに近いが 5 名、アシスタントに近いが 20 名、制作者に近いが 62 名であった。モデルのカウセリングを主に設定したコンセプト制作であったとしても、ヘアメイク担当は制作者という意味が高いことが分かった。

### III-2 定性的分析

回答調査に用いた質問項目として、回答者に「⑩今回の制作について感想や気になった点をお答え下さい」という問いを設け、自由記述形式で回答を求め、自由記述データをもとに、定性的分析を行った。回収した調査用紙のうち、上記の設問に回答している計 63 件の記述文を分析対象とした。

#### III-2.1 自由記述の分析手続き

分析として、内容が似ている文章のグルーピングの後、主題分類を行った。また、表 4 のように同義語のまとめを行った。

表 4 同意語の処理

語句表記	同義語
楽しい	面白い
良い	良かった
体験	経験

#### III-2.2 自由記述の分析結果

主題分類の結果、「楽しい」、「良い」、「大変」、「難しい」、「コンセプト」の件数上位 5 つのクラスターが得られた。以下に、クラスターの内容を示す。

##### クラスター1「楽しい」の記述内容 (35 件)

例として、「同じモデルさんで 2 つのテーマをできて凄く楽しかった」「実際に人にやって作品を作る機会があまりないけど、やれてとても楽しかった」「楽しくてやりがいのある授業だったと思います」「他のグループの作品もたくさん見ることができて面白かった」の回答があった。経験の少ない 2 極の作品制作や人体モデルへの制作および授業内容や作品発表についての記述が見られた。

##### クラスター2「良い」の記述内容 (27 件)

例として、「良い経験になった」「良い作品ができた」「全体的にイメージに近い作品ができたので

良かった」の回答があった。経験としてや完成作品への満足度についての記述が多く見られた。

クラスター3「大変」の記述内容 (13件)

例として、「ヘア作りやプレゼンボード作りの準備が大変だった」「チームで意見を合わせて1つの作品を作ることは大変なだと思いました」「作品作りから撮影まで自分達でやるのは大変だった」の回答があった。制作準備や学生間の意見まとめ、プログラムの進行で感じた苦心についての記述が見られた。

クラスター4「難しい」の記述内容 (8件)

例として、「肌と髪は人それぞれ違うので、難しい仕事だと思った」「撮影が難しかった」「自分のアイデアをどのように表現するか、工夫する難しさを学びました」などの回答があった。事前に計画を立てていても生じた事項に対しての試行錯誤やその難易度についての記述が見られた。

クラスター5「コンセプト」の記述内容 (7件)

例として、「モデルに合わせたコンセプトを考え、技術を行うことが難しかった」「モデルのイメージに合わせてコンセプトを考え、その通りよくできた」「コンセプト決めが大変だった」の回答があった。「Ⅱ-1.1 授業プログラムの到達目標」で挙げた4点の共通する到達目標でもある「コンセプト」を意識した記述が見られた。

その他の回答の多かった記述内容を、以下に示す。

1. イメージチェンジ・アップについての記述(13件)

技術者側「モデルを変身させることができた」、  
モデル側「違う自分になれた」

2. 反省や改善希望などの意見についての記述(10件)

「もっと計画的に行なえばよかった」「時間が足りなかった」、「2年前期にこの授業があったらいいと思った」「ヘアを担当して、思い通りにできなくてもっと練習をしようと思いました」

Ⅲ-2.3 授業プログラムにおける授業目標の到達度

以上の分析結果から、平成24年度美容総合学科美容デザイン専攻2年後期科目「美容芸術学」で実施した、方法的試論(ヘアメイクデザインのプロセスの一例)の授業目標の到達度について考察した。

(Ⅱ.1.1 授業プログラムにおける授業目標)

第一に、お客様の希望を聞き取るカウンセリング能力、デザイン能力、表現能力を養うことを目的として、モデルの希望を反映した制作目標について、ヘアメイク制作者は、デザインを考える際に、カウンセリングによってモデルの意思を反映したデザイン決めが行なわれていた点や、完成作品が制作者とモデルの片方のイメージに偏ることなく、双方のイメージに近い作品が完成したことから、目標は十分に達成されたと考えられる。

第二に、パーソナリティを活かした多彩な表現方法を養うことを目的として、モデルへのカウンセリングを基にイメージアップとイメージチェンジの2作品の制作目標について、プロセス毎に記録のできる用紙やプレゼンテーションボードの提出ができなかったグループが0グループであった点や全体として完成作品への満足度は高いことから、目標は比較的達成されたと考えられる。

第三に、ヘアデザインの着想を具現化する能力を養うことを目的として、ヘアメイクデザイン画の作画の制作目標について、授業にて観察している際、言葉だけでデザインを決めていくグループが2、3組いたが、デザイン決定の際にデザイン画を活用している学生が比較的多かったことから、目標は比較的達成されたと考えられる。

第四に、作品の完成度の確認および美容の芸術的可能性を探ることを目的として、作品についてプレゼンテーションを行う目標について、全40グループのプレゼンテーションボードの完成、プレゼンテーション批評シートの記入率が85.2%と高いことから、目標は十分に達成されたと考えられる。

#### IV. 結論と今後の課題

本授業プログラムでは、「美容芸術学における授業プログラムⅠ」の授業内容およびⅡ-1のシラバス内容を元に、本プログラムにおける学生の到達目標4点の共通目標として、「コンセプトに沿ったヘアメイクデザインの制作」を掲げて実施した。

また、プロセスを経て完成した作品と学生アンケート調査を基に、授業目標の到達度について検証を行なった。その結果、作品のコンセプトや作品について、学生間の相互評価を導入することにより、多くの感性から学ぶ機会を増やし、発展的な学習が行なわれること、また、相互評価を受けることで到達度を確認出来ることが示唆された。しかしながら、本調査結果は、比較対象不足により、単純集計による基礎的調査にとどまったため、調査方法の検討を行うことが課題として残された。

今後、本学の目指す人材育成および自校教育として、授業目標と授業内容の整合性の確認や学生の満足のみこだわらない授業目標に応じた指導法の工夫、学習における学習成果など、改めて授業の構築を考え、美容教育の充実を考える必要がある。

#### 謝 辞

本授業プログラムの施設使用等で、ご協力いただきました図書館司書の林きよこ様および松崎薫様に感謝申し上げます。

本アンケート調査にご協力いただきました美容総合学科美容デザイン専攻 2 年次生の皆さまに感謝申し上げます。

#### 文献

- 1) 山野愛子:美容芸術論、IN 通信社、1991
- 2) 富田知子:美容師のための美容芸術論、ヤマノインターナショナル、1999
- 3) 武藤祐子:美容教育をめぐる方法論的試論-社会調査に基づく現状分析と今後の課題-、京都造形芸術大学修士論文、2010
- 4) 富田知子他:美容芸術学における授業プログラム I、山野研究紀要第 21 号、2013
- 5) 大川一毅:自校教育授業における「到達目標」と「学士力育成」-実施大学のシラバス記載とアンケート調査結果から-、日本教育学会第 69 回大会、2012